

Wana **広報** **イキシア**

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとな心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

2017年5月
74号



ワークショップ茂原



長生プリオ・長生地域生活支援センター



だいち・そら



大網拠点

2017
年度
スタート



千葉拠点



柏拠点

『今どき福祉事情』

理事長 寺田一郎

ちょうど一年前のイキシア七十一号では、「保育園落ちた日本死ね」というツイッターへの書込みが政府を揺さぶったことを取り上げました。

投稿から二年、保育事情はどう変わったのでしょうか。厚労省の発表では二〇一四年で保育定員二十一万九千人、待機児童は二万二三百七十一人でした。国の目標値の二十万人は既に突破していますが、待機児童は二〇一五年になると増加に転じています。定員が増えても待機児童は減っていません。

地域ニーズの顕在化

この現象は、障害者福祉も同じです。サービスが無いと地域のニーズは表立って出てきませんが、サービスが整うとそれに合わせるかのように地域のニーズが増えます。サービス在るところにニーズありなのです。これを誤解するとサービスが未整備の町で「我が町にはニーズがありません」という行政判断にもなります。

一方、安倍首相は「待機児童ゼロ」や「介護離職ゼロ」を目

標に保育士や介護職員を増やすことを表明(昨年二月)しました。保育士は二〇一七年度末までに約九万人、介護職員は二〇年代初頭に約二十五万人不足するとの見通しが背景にあります。その前に福祉系大学や専門学校で定員にはるかに満たない状況があつて入学のハードルは無くなつています。そして就職のときも職員数を確保することが優先され資質は二の次という有様が出ています。

障害者総合支援法による福祉サービスのうちグループホーム(共同生活援助事業)を例にとると、二〇一四年度の利用者数は約八万八千人(ケアホームとグループホームの合計数)でしたが、二〇一六年度では十六万二千人に急増しています。障害者が急に増えるはずはありませんから、潜在的な障害者が受け入れ事業所の整備に合わせて顕在化したと言えます。

何でも対応の限界

障害者福祉に限ったことではありませんが、最近の福祉も一般のビジネスもお客様の

ニーズに答えることが至上命題とされてきました。福祉では利用対象者を中心としてその希望を実現するために相談支援事業所やサービス提供事業所であらゆる努力をするところが福祉事業のあり方とされてきました。私も研修会などでその姿勢を大切なこととして伝えてきました。

しかし、ニーズはどんどん膨らみ、地域移行・地域定着相談では二四時間体制が採られています。「地域共生社会の実現」も屋上屋を重ねる施策が次々に発表されますが、今後の福祉は、対象者を限定しない、二四時間三六五日体制が趨勢となつて来ました。千葉県では既に中核地域生活支援センターがこの取り組みをしています。

ところで、ヤマト運輸が「配達的时间指定」の見直しや「再配達の受付時間の短縮」を決めたというニュースが流れまされた。いずれも利用者に支持されていたサービスです。しかし特にネット通販の荷物量の増加などで対応するためのドライバー不足から長時間労働

が常態化していることが指摘されていたことが発端となりました。

これは福祉分野でも早晚問題化することだと考えます。ニーズに答えることは事業の目標ではあつても全てのニーズに対応できなくなっている現実があります。福祉ニーズとサービス提供における質と量、今後の大きな課題だと思います。増大するニーズに応えようとすれば質が低下します。職員のライフワークバランスは無視され近頃言われた別たプレミアムフライデーは別世界の話となります。

課題の解決と事業計画

ワーカーホームにおける今年度施設整備は、継続事業として、柏市での「地域生活支援拠点事業」(事業費三億七九二万円)、大網白里市での「生活介護棟改修工事」(事業費三〇〇八万円)、さらに千葉市での「グループホーム」(事業費九九三三万円)があります。今年度は、この三本の事業を同時に進行させることになりませんが、慎重な管理が欠かせなくなっています。

地域の施設整備は、多様な事業主体の参入が続いています。私たちとしては、地域のスピード感に対応する施設整備

とそれに見合う管理体制を早急に確立する必要があるとす。

それと同時に職員の労働条件、労働環境を再検討するところが急務と感じています。

昨年度で資格取得を奨励する祝い金制度や資格取得のための授業料等貸付金制度、リフレッシュ休暇制度、キャリアパスなどが概ね完成しました。有給休暇は比較的順調に消化されていますが、リフレッシュ休暇も次第に職場に定着してきたようです。要は職場から一人くらい抜けてもちゃんと業務が回る仕組みが不可欠です。

もう一つの課題は、時間外労働の解消です。ケースワーカー達は行事やプログラムの企画などでデスクワークを時間外で処理しています。利用者の緊急対応が時間外となることは障害者福祉では仕方がないこともありますが、業務の効率化をさらに進めながら全職員で意識しながら解決したい課題です。質を維持向上させながら採用から教育訓練、ストレスチェックまでの体制を確立し、誰もが持つていける力を十分に生かしながら快適に働ける組織作りを目指します。様々な課題が見えている三十一年目のワーカーホームです。

所内研修報告

1月 地域公開講座

毎年恒例「先輩PSWに訊く」の回ですが、今年は『地域生活支援センターゆりの木』の元センター長で、現在は『樹の実会』で働いておられる鈴木洋子氏をお招きし、鈴木氏の実践の歴史について、ご講演いただきました。

鈴木氏は、浅井病院に事務員として入職するも、後に相談員として働くようになり、現在は相談支援専門員として活動されている方です。入職当時は、精神衛生法時代の真つ只中で、精神障害者に対する根強い偏見や宇都宮病院事件があった頃で、大変な思いをなさったそうです。しかし、「大変な思いをしても、熱いハートを持ち続けること」それが大切であり、今の若い職員には足りないのだと感じました。

その後は「長生健康福祉センター」中村氏、ワーナーホーム三好を交え、座談会を行いました。鈴木・中村両氏は、中村氏が山武保健所に来た時からの仕事仲間であり、共にボランティア講座の開催や講演会等に取り組んでこられました。両氏のお話を伺う中で、「人脈作り」の大切さを改めて実感しました。人の入れ替わりの激しい業界だからこそ、若い職員同士や他事業所同士で関係を築き、育み、支え合うことが不可欠であると感じました。

(斉藤)

2月 研究発表

優秀賞 「ホレブデイ サービスセンター」

《テーマ》かゆいところに手が届く
生活介護・生活訓練を行うホレブデイサービスセンターとヘルパー
ステーションそらとの間で共通しているのは地域で生活をしている利用者に対する支援を行っているという点でした。互いの事業所で支援の仕方について悩んでいる人について、改めてどういった生活環境なのか、どういう理由でサービスを利用しているのか、などの確認と支援の中で気づいた点や印象深かったエピソードなどを関わっている支援者同士で細かい部分まで話し合いました。話

貢献賞 「ノバハイツ白里」

※ショートステイ
(以下SSと表記します)
《テーマ》実際のSSの役割
SS受け入れの難しさ
・研究動機…SS利用には様々な背景があり、SS受け入れの難しさを感じているため。
・仮説…介護者の負担軽減・本人の気分転換というSSの役割を担っていないのではないか。
・調査方法…利用者状況(經由機関、利用目的等)を調べ表にした。
調査の結果、仮説で述べた役割よりも施設入所へ向けての訓練が最も多く求められていましたが、それ

を進めていく事で、利用者自身の気持ちや同居されているご家族の思いについて考えを巡らせる事ができました。

そうして話あう中で自分たちの事業所でもっと出来ていたはずのサービスは無かったのか、出来ない部分は他のサービスを利用する事で補えば、より本人や家族が希望する生活に近づけるのではないかとこの事を考えることが出来ました。普段の支援で対応に困っていた部分もその理由や気持ちを深く考える事が出来た研究発表でした。

(古市)

は本人の意思ではなく周りの判断が多い事が現状です。

数字で計る事はできませんが、支援の手応えとして利用者自身がSS利用の必要性を感じていないことが圧倒的に多くあります。

さらに、利用者は精神疾患だけではなく重複障害者や複雑な家庭環境であることが多くあり、求められる支援の幅や質が異なります。本人やその周りの環境のニーズに柔軟に对应し、心の拠り所や第二の家族として安心して利用できる場所でありたいと思います。

(伊藤)

わーなー一日誌 《だいち》

グループホームだいちは、大網駅近くの駒込にあるだいちを母体ホームとして、マンションタイプの大あみハイツ、一軒家タイプのゆうゆうホーム、ぼこ・あ・ぼこ、ローリエと計五つの住居があります。

グループホームだいちでは、障害を抱えた仲間達が、協力し合いながら生活をしています。利用者同士でカラオケや食事に出かけたり、買い物ついでにお土産を買ってきてプレゼントしあったり、食事支援のない日に鍋パーティーをしたりと、利用者同士の仲もよく、アットホームな雰囲気です。朝から麻雀をみんなで作っていたり、夜にギターを弾きながらみんなが歌っていたり姿を見かけるととてもほっこりします。みんなで楽しめる機会を少しでも多くしたいと、今年度はだいちの所内行事を増やしました。今から企画が楽しみです。

だいちの半分近くの人が、将来は就職して自立生活をすることを目標に、掃除や洗濯、炊事、服薬・金銭管理など、出来ることを増やしながらか頑張りしています。自己啓発の意識も高く、お助け隊に登録して

ボランティア活動に出かけている人や、危険物取扱者乙四種の資格を取った人、漢字検定準二級に合格した人などがいて、お互いに刺激を受けています。昨年度一名が就職をしました。仕事は覚えることが多く大変なようですが、とても頑張っています。もうすぐ就職面接を控えている人もおり、受かるかどうか利用者・職員ともども緊張の毎日です。職員でしっかりとサポートしていきます。



昨年度、利用者の一人が結婚のためだいちを卒業していただきました。今は主婦業に奮闘しているようです。だいちでは若い方や自立度の高い方が多く、結婚を視野に入れている方もいます。人生のおめでたい時期を一緒に祝えることがだいちの特権だと感じています。

(三好美)

2017年度

事業計画

大綱拠点

新ホレブ寮は昨年三〇周年を迎えました。三〇年前は、精神障害者は福祉の対象ではなく医療の対象でした。現在は、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして利用者がサービスを選び契約する、選ぶ時代になりました。

しかし、実状は、福祉業界への市場原理の導入により福祉サービスの偏在が目立ち、よりニーズの高いグループホームの数は不足している実状があります。緊急を要する方の受け入れやサービス利用の必要度が高い方をしっかりとサポートできる質の高い事業所が求められています。ワーカー

ホームとして、重度の障害方、困難ケース、触法障害者等の受け入れを柔軟に、また、どうしたら受け入れ出来るのかを検討し積極的に行ってきました。しっかりと役割を担っていただくために、今年度は、クロワールの定員増を計画し、改修工事の検討と要件を満たすための準備を行って行く予定です。新ホレブ寮においても、二人部屋の実態態等、調査を行う予定です。



だいち、ゆうゆうホームにおいても、定員変更もしくは短期入所事業や地域移行の体験利用など空室の活用を検討していきます。

現在、ホレブデイサービスセンター生活介護棟は、改築工事中です。七月完成予定で、八月から生活介護棟での定員を三〇名から三四名に変更します。より快適な空間を提供できるように、今までテラスであった部分を多目的室とし、スペースを広げ、事務所も広くなります。完成まで、利用者、職員共々、あと数か月、完成を心待ちにしています。

また、テラス西中は、生活介護事業におけるサテライト的なスペースで集団行動を好まない方の居場所であり、のんびり過ごせる場所でした。また、一軒家での生活をイメージしていたために活用していませんでした。しかし、ここ最近では



利用ニーズがなく、七月末でホレブデイサービスセンターとしてのテラス西中の利用は終了とします。しかし既に、ワークショップしらすとから利用したいとの声が上がっており、ますので法人内でテラス西中の活用を今後どうすべきか検討していきます。相談系事業所の運営は厳しいものがありますが、法人の支えによって頑張つてまいります。(高木)

大綱拠点実施事業
ケア付き共同同居(法外施設)、共同生活援助、短期入所(単独型)、生活介護、自立訓練(生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援B型、居宅介護、指定特定・一般・児童相談、障害者就業・生活支援センター

また、両事業共通の関わり方として、相談者の抱える「生活のしづらさ」を見極めた上で、課題解決を図れるよう、職員一丸となって活動していきます。(吉井)

山武事業所

さんぶエリアネットは、中核地域生活支援センター事業の要綱改正により、市町村バツクアップ事業の追加、支援対象者を制度の狭間で支援の手が届かない方などを中心とする。このように、県の事業としての役割を意識しながら支援を行うこととなります。

山武都市の広域支援を担う事業所として個別支援と地域づくりの両方で活動を展開する。

三年目を迎える生活困窮者自立相談支援事業くらしサポートは、「相談者の三割が障害者又は障害の疑いがある者、一割が精神障害者」という相談対象者に対して、障害者支援の有効性について見極める一年とする。

また、両事業共通の関わり方として、相談者の抱える「生活のしづらさ」を見極めた上で、課題解決を図れるよう、職員一丸となって活動していきます。(吉井)

山武事業所実施事業

中核地域生活支援センター、生活困窮者自立相談支援(大網白里市・横芝光町・芝山町・九十九里町)

柏拠点



今年度は、柏市の重点施策として位置づけられている、柏市地域生活支援拠点実施に向けての準備と、実施初期における安全な運用に柏拠点全職員で取り組みます。住み慣れた地域でその人らしい暮らしを支え続けていくための、拠点整備は、病院ではなく住み慣れた地域で暮らすことを支え続けてきたワーカーホームが、ずっと目指してきたことです。よって、法人および柏拠点で実施してきたことが集約される事業であり、急激な事業拡大があるわけではありませんが、今まで以上に手厚い二十四時間体制や法人を超えた緊急受け入れが求められるため、きめ細かなリスク管理と職員の育成を行いながら実績を積んでいきたいと思

取り組みのポイント

- 一、環境の整備
 - 必要な支援をより効果的に提供できる環境と、地域との交流を生み出す環境整備を準備します。
 - 柏市地域生活支援拠点設置
 - ・わたげワークス改修
 - 二、適正な運営
 - 訪問看護ステーション、放課後等デイサービスの運営安定化を図り、生活における医療面でのサポート体制を強化します。

三、労働環境の整備、人材の育成

働きやすく、それぞれの能力・意欲を活かすことのできる労働環境を整備します。また、職員一人一人の気づきと学びをサポートし、ひとりひとりの成長がチームとしての支援力アップにつながる組織作りを目指します。

責任を感じながらも気負わず、「安心と信頼」「つながりと相互理解」がここから広がる地域生活支援拠点づくりに取り組んでまいります。(大久保)

柏拠点実施事業

指定特定・一般・児童相談、地域活動支援センター、就労移行支援、就労継続支援B型、共同生活援助、放課後等児童デイサービス、訪問看護

千葉拠点

千葉拠点では、今年度、新規グループホーム「ポルタ」を建設予定です。誉田駅近くの便利な場所に定員10名で計画しています。千葉市ではグループホームが不足しています。資源を増やすと共に、三年の期限を設けている現グループホーム「フジエール」の卒業生の次の住居となると思っています。「フジエール」では、友達との外出、入居者が自ら始めた日曜日のグループ自炊などお互いが気を遣い、助け合いながら生活をしています。これが地域でのリハビリテーションののだと感じます。フジエールでは三年目を迎える人たちが、「卒業旅行はどこに行こうか」などと話し合われています。

ワークショップ兼取は、作業種目が①パン製造販売②環境整備③受注作業に分かれています。パン製造販売では、販売先が増えましたが、来店者が少ないため、もう少しお店を目立つようにすると共に広報活動をしたいと思えます。環境整備作業は大きな電動草刈り機を購入しましたので、作業効率が図れると思えます。

受注作業とは、近隣の企業から請け負う作業ですがパクチーの仕分け、箸入れ、ネクタイのタグ付けなどを行っていただきます。作業が増えたので作業収入も安定してきました。工賃の向上を図る予定です。

兼取相談支援センターは、精神障害者を中心に計画を作成します。事業所の特徴である、「地域移行」に今年度も力をいれます。更に、千葉市の病院や事業所、公的機関とネットワークを構築する活動をしていきます。

そして今年度は、地域との交流活動として「流しそうめん」を企画しています。今までの所内行事でしたが、地域の方々も参加できる行事としたと思います。ワーカーホームを知ってもらうこと、地域の方に障害理解を深めてもらうこと、誰もが等しく地域生活者であり、地域住民の一人として楽しむことを目的としたいと思います。

今年度もやっぱり盛りだくさんです。みんな〜！体を労わりながらレッツゴー！

長生拠点

長生地域生活支援センターの計画相談と委託相談、長生ブリオの就労支援では、初めて福祉サービスを利用する方やまだ手帳を取得していない方、特別支援学校を卒業する生徒さんや児童の施設に入所中の方、また精神障害ではなくとも心の問題を抱えた方など、多様な相談に専門的な対応を求められており、相談の依頼は常に増え続けています。昨年入社した職員も含めて皆がそれらの相談にしっかりと対応できるよう、スキルアップを目指します。

同じ茂原市内にあるワークショップ茂原とは合同のプログラムを計画していて、利用者さんと職員の両方を含めた交流を図っていきます。

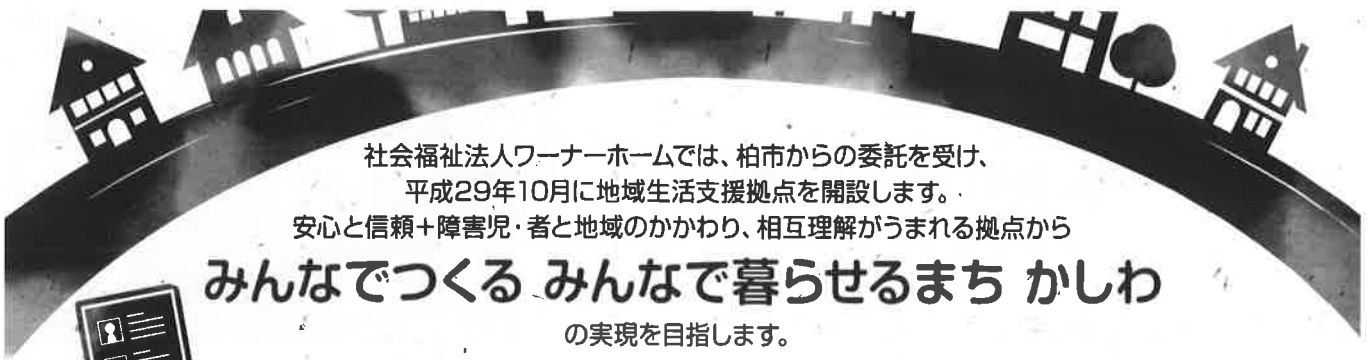
また居住サービスが足りていない長生圏域でのグループホーム設立に向け土地を選定して、準備を進めたいと考えています。(山岡)

長生拠点実施事業

障害者就業・生活支援センター、指定特定・一般・児童相談、地域活動支援センター、就労移行支援、就労継続支援B型

千葉拠点実施事業

指定特定・一般相談支援、就労移行支援、就労継続支援B型、共同生活援助



社会福祉法人ワーナーホームでは、柏市からの委託を受け、平成29年10月に地域生活支援拠点を開設します。安心と信頼+障害児・者と地域のかかわり、相互理解がうまれる拠点から

みんなでつくる みんなで暮らせるまち かしわ

の実現を目指します。

相談支援

総合的・専門的な相談

24時間相談受入・コーディネート

- ① 地域で生活する障害児者の様々な相談に対応します。
- ② 障害児者の権利を守るための成年後見制度や虐待についてもご相談ください。
- ③ 関係機関からの相談に対応し、障害児者の地域生活を支えるネットワークが広がるような交流会や勉強会を開催します。

一般・特定(移行・定着)相談

障害児相談

福祉サービスの利用に必要な計画の作成や調整などを行います。

グループホーム短期入所

共同生活援助

既存のグループホームでの受け入れが難しい方に対し、住まいを提供し、ずっと安心して暮らすことのできる暮らし方を考えます。

短期入所

- ① 緊急時の宿泊
- ② 体験的な宿泊
- ③ 休息などの宿泊

訪問看護

地域生活を医療面からサポートします。

精神科訪問看護

小児訪問看護

に特化したステーションです。

放課後等デイサービス 日中一時支援

医療的ケアを必要とするお子さんなどが日中や放課後お友達と過ごす場所です。近隣の保育園や小学校などとの交流も行います。



就労支援

それぞれの力を生かし、仲間と力を合わせておいしいパンを地域に届けます。地域の作業所商品の紹介や柏特産商品の開発などにも取り組みます。



主任紹介

この度、たんぼぼセンター主任を拝命いたしました。これもひとえに、日頃から支えてくださる上司、先輩、共に働く仲間の協力や支えの賜物であると、心より感謝申し上げます。

この大役の重みをかみしめ、今後一層、皆で力を合わせ、より良い柏拠点にしてい

きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。抱負として、①今年度開始する柏市地域生活支援拠点事業を滞りなくスタートさせ、地域からの信頼を得る。②事業所や職員間の関係をより良くし、良い職場環境と円滑な業務体制を作り上げる。③事業所や個々に課せられている役割を理解し、それに応えられる職員へ皆で成長する。この三点を目標に、大久保施設長を支えられる主任になるよう努力し、ワーナーホームとして地域の人々の笑顔を沢山増やしていきたいと思っております。



小助川 佐代
たんぼぼセンター 主任

2017年度より主任という大役を頂くこととなりました。私なりにテーマを持って業務に臨みます。漢字一文字で表すと「活」です。

2010年に入職してこの七年の間、だいち、さんぶエリアネット、わたげワークスで勤務をして参りました。どの勤務場所においても、利用者さん・職員と共

に一緒に悩み考え、そして喜びを共有してきました。そして私自身が生き活きと業務に当たれるようになりました。

主任として、「一緒に働いている職員が生き活きと業務に当たれるように」「利用者さんが生き活きと活動していけるように」、そして利用者さん・職員の生き活きが相乗効果を生み、事業所全体が生き活き出来るような環境を作っていきます。

まだまだ未熟な点がござりますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



上野 泰典
わたげワークス 主任



私の Work Life Balance



共同生活援助事業
**クロワール
 ファミリー**
 サービス管理責任者

武藤 朱里

WORK	年度	LIFE
ホレブ寮の指導員として入職	2003	11月 結婚
初めての産休	2004	10月 長女誕生。育児休暇を利用して、介護職員初任者研修を受講
仕事復帰		
2回目の産休	2005	長女の入退院
仕事復帰	2006	
ワークショップしらさとへ異動	2007	3月 次女誕生、次女の入院
3回目の産休	2008	長女 保育所入所
仕事復帰	2009	12月 長男誕生
ホレブデイサービスセンターへ異動	2010	次女 保育所入所
ホレブ寮・ノバハイツ白里へ異動	2011	長女 小学校入学、長男の入院
	2012	
	2013	次女 小学校入学、長男 保育所入所 長女と次女がバスケットを始める
	2014	
	2015	長男 小学校入学
	2016	長女 小学校卒業
	2017	長女 中学校入学

時間の使い方が下手で、仕事と育児の両立に悩んだ時期もありました。



みんなに支えられながら仕事を続けています。

応援する楽しみが増えました。子供の成長は、何よりの幸せ！

私は就職して十四年が過ぎました。十四年の中で、子供を三人出産し、仕事と家庭の両立をしてきました。それは、安易なものではありませんでした。時間の使い方が下手で家族に迷惑をかけてばかりいました。

子供たちが少しずつ大きくなるにつれ、様々な病気をし、急に仕事を休むことも多くありました。長女と長男は病気がちで入院をすることもあり、仕事を続けることに悩んだ時期もありました。

しかし、私が仕事を続けられているのは、周りの人に助けてもらっているからです。子供たちが保育所に入所するまでは、日中の育児を姑にお願いしていましたし、夕食は今でもほぼ夫が担当してくれています。家族だけでなく、仕事をカバーしてくれる上司や同僚、話を聞いてくれる仲間もいました。そして、これからは、私のように出産をしても仕事を続けられる職員を増やせるように、働きやすい環境づくりを目指していきます。

(武藤)

赤い羽根共同募金

ワークシヨップしらすと



貴重品ロッカー
ホレブデイサービスセンター



・面談室机・椅子セット
・靴箱・キャビネット
ありがとうございます。大切に
使わせていただきます。
(野老順)

ワナーホームの主な動き

《二月》

・初詣ワークシヨップ兼取・ホレブデイサービスセンター・自立訓練・ホレブ寮・ノバハイツ白里・だいち・すくすく・たんぼぼセンター・長生地域生活支援センター・ワークシヨップ茂原・ワークシヨップしらすと・フジエール



柏神社にて
(たんぼぼセンター)



東金厄除け不動尊にて
(ホレブ寮・ノバハイツ白里)

・書初め大会(ホレブ寮・ノバハイツ白里合同)
・新年会(だいち・長生地域生活支援センター)
・お正月ゲーム大会(フジエール)
・企業向け相談会(茂原市総合市民センター)・長生プリオ

《三月》

・豆まき(ホレブデイサービスセンター・フジエール)
・焼き芋(テラス西中)・ホレブデイサービスセンター自立訓練
・外出カラオケ(たんぼぼセンター)
・バス旅行(横浜中華街)・ワークシヨップ兼取

《四月》

・デイサービス改修工事開始(ホレブデイサービスセンター)
・ひな祭り・お花見(茂原公園)・ホレブデイサービスセンター
・映画鑑賞会(ホレブデイサービスセンター)自立訓練
・北柏町会防災訓練参加(エクラス)
・カラオケ大会(だいち)
・チャリティーコンサート夢2017(すくすく)
・進級お祝い会(すくすく)
・お花見(柏ふるさと公園)・たんぼぼセンター
・ピクニック祭(勝浦海中公園)・長生地域生活支援センター
・食事会(飯岡潮騒ホテル)・フジエール

・いちご狩り(加藤いちご園)・だいち
・ページャル茂原店三周年記念セール・ワークシヨップ茂原

収支決算書

自2016(平成28)年4月1日
至2017(平成29)年3月31日

イキシア会
単位:円

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
振込料	23,984	会費 (161名)	1,181,000
小計	23,984	小計	1,181,000
次期繰越	4,083,672	前期繰越	2,926,656
合計	4,107,656	合計	4,107,656

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解を頂き、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

賛助会員 三千元(年)

正会員 一万円(年)

(会費)

編集後記

新入職員や異動のあった職員も少しずつ落ち着き始めたように感じます。

今年も事業展開や利用者ご家族と祝うホレブ寮三十周年記念パーティーと、様々なイベントをお知らせしていきます。
(M)

発行所

ワナーホームイキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎